

ティーチング・ステートメント

所属 薬学部 薬学科

名前 樋浦 一哉

作成日 2021年3月27日

【責任】

臨床薬学部門 臨床薬剤学分野に所属し、臨床薬学を中心とした教育・研究活動を行っている。主たる教育活動は臨床薬学系の講義（薬と疾病：3, 4年生）、演習（臨床薬学総論：6年生）、臨床薬学実習（3, 4年生）の担当、卒業研究指導、実務実習委員である。

【理念】

学生には、患者利益を第一に考え、卒後も医療人として成長し続けられる人財になってほしい。そのためには、大きく分け2つのことが、重要であると考えている。

一つ目は、「患者の立場に立った思考や行動ができる」ということである。医療が高度化・多様化し薬剤師に求められる社会からの要望は大きくなっている。しかし、根底にある最も重要なことは「患者に必要とされる存在」「患者に信頼される存在」であることだと考えている。それは、漫然と患者の要望や希望を聞き入れるだけの存在ではなく、医学的判断に基づいた対応ができる、本当の意味で患者に寄り添える存在である。つまり多面的な物の見方ができるコミュニケーション能力、薬学的知識に基づいた判断力、医療倫理を身につけることが重要である。

二つ目は「問題を発見し、解決に向け前進する能力」である。日々の業務に埋もれることなく、臨床的疑問（クリニカルクエスチョン）を発見しそれを解決することつまり、より良い医療・業務を探求し続けることの重要性に気が付いてほしい。それは、仕事のやりがい、職業意識の高まり、キャリアデザインを支援することに繋がる能力であると考えている。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために、下記の5つの方針「知識の定着」、「薬剤師業務に更なる興味関心を持てる情報の発信」、「問題・疑問を解決する術を身につける」「コミュニケーション能力の向上」「社会人・医療人としての心構え」を掲げて教育を実践している。

知識の定着

- ・ 都度、授業スライドの見直しを行う。
- ・ 学生が授業に集中できるよう、事前に資料を Moodle に提示する。
- ・ 見やすい授業資料、大きな声、適切なスピードではっきりと話す。
- ・ 授業内容は、定期的に授業録画等で自己チェックを行う。
- ・ 個人の質問であっても全体に解答し、疑問を共有する。
- ・ 臨床で実際に行われている内容や経験を踏えた講義を行う。
- ・ 学習成果を確認する課題などは、医学的考え方やその判断に至った思考を重視した内容の物を用いる。

問題・疑問を解決する術を身につける

- ・ 卒業研究では連携病院に学生と出向き、実臨床でのクリニカルクエスチョンを認識し問題解決に挑む。
- ・ 卒業研究では、現場の薬剤師と研究チームの一員としてディスカッションを行う。
- ・ 研究内容についてのディスカッション、個別のプレゼンテーション、ゼミでの全体プレゼンテーション時の指導などを通し、解決能力の習得を目指す。

社会人・医療人としての心構え

- ・ 私自身が、学生との関わりにおいて責任を持った行動をとる。
- ・ 卒業研究において、現場の薬剤師と協力し研究することにより、実務実習とは異なった視点で社会人・医療人としての行動に触れる機会を作る。

コミュニケーション能力の習得

- ・ 卒業研究で現場の薬剤師と研究チームの一員としてディスカッションする。
- ・ 研究内容についてのディスカッション、個別のプレゼンテーション、ゼミでの全体プレゼンテーション時の指導などを通し行う。

【成果・評価】

- ・ 授業評価アンケートで工夫/わかりやすさに関する評価が良い。
- ・ 実臨床に即した授業が、面白かったと直接学生からの声があった。

【目標】

短期

- ・ 学生の授業アンケートの要望に答えられるように教科書・スライドの見直しをする。
- ・ 症例検討（課題）において他者の意見も学べる授業立案する。
- ・ 卒業研究の内容を学会発表し、論文投稿を目指す。

長期

- ・ 大学で学んだことが十分に活かされ、人格/知識ともに即戦力になれる人材の育成を目指す。
- ・ 卒後も学びを続け、専門薬剤師や学会発表・論文投稿を積極的に行い、薬剤師業務を活性化させる人材の育成を目指す。